八王子市入札監理評議会 議事要旨（定例評議会）

開催日時及び場所		令和7年（2025年）1月17日（金） 9：30～11：45 八王子市役所 805会議室					
出席評議員		奥評議員、谷垣評議員、直井評議員					
抽出案件			（抽出期間：令和6年（2024年）4月1日～令和6年（2024年）9月30日）				
区分	件数	通番	案件名		通番	案件名	
工事	一般競争入札	1件	1-1	川口やまゆり館大規模改修建築工事			
		2件	2-1	長房ふれあい館大規模改修給排水衛生設備その他工事	2-2	長房ふれあい館大規模改修空調換気設備工事	
業務委託	一般競争入札	4件	3-1	システム標準化対応支援業務委託	3-2	八王子市庁内データ連携機能構築等委託	
			3-3	情報システムオペレーション（WebSAM JobCenter等）業務委託	3-4	家屋評価システム再構築及び保守・運用支援委託	
	随意契約	1件	4-1	庁内印刷業務委託			
抽出案件ごとの質疑		通番	質問等		回答等		
		1-1	1 契約金額が比較的大きな案件であり、入札参加希望者数が7者あったものの、5者辞退、1者不参加となっているが、その要因は何か。		1 年度当初に発注する工事は規模が大きいものが多く、資金面や他案件との兼ね合いなどが考えられる。		
		2-1 2-2	1 異なる工種・業種の案件を、同一事業者が同一契約日・工期末で受注しているが、問題なく工事が行われたのか。 2 給排水衛生と空調の業種はどちらも管工事業であり、両方の業種に登録のある事業者が多いとのこと。今回、給排水衛生設備その他工事と空調工事を同時期に別々に発注し、どちらも同一事業者が落札しているが、1本の発注で入札にかけることはしないのか。		1 問題なく工事が行われている。2 案件とも特例監理技術者及び監理技術者補佐を配置している。特例監理技術者を配置しているため、監理技術者は兼任、給排水衛生設備工事及び空調工事に各々監理技術者補佐を配置しており、3名で工事現場における工事の施工上の管理を行っている。施工に関して、給排水衛生設備工事及び空調工事それぞれ専門の作業員を配置しており、受注者が異なる案件と同様の体制が整えられている。進捗状況に関しても問題ない。 2 事業者の入札参加の機会を増やすために、分離・分割発注が原則となっている。小規模な施設の改修を行う場合など、事業者が施工し難い状況になってしまうことが想定できる場合は一括発注をしており、案件の内容によって個別に判断している。		
		3-1 3-2 3-3 3-4	1 3-1システム標準化対応支援業務委託と3-2八王子市庁内データ連携機能構築等委託については、システム標準化に関連している案件とのことだが、これは切り分けて契約する必要があるのか。 2 継続性のある案件を発注する場合に、前回の契約者と同じ事業者が落札する傾向があるが、何か事情があるのか。 3 情報処理業務の分野では、予定価格に対して落札率が低くなる傾向が見られるが、一方で一者入札が多いのはなぜか。		1 業務委託の目的や内容が異なるため、別々に契約をしている。3-1システム標準化対応支援業務委託は、地方公共団体情報システムの標準化に関する法律(令和3年5月19日法律第40号)に基づき各業務システムが標準準拠システムへ移行する際のスケジュールやシステム間の連携調整について支援を受ける内容であり、3-2庁内データ連携機能構築等委託は、庁内の各システムを連携する目的でシステムが必要になるため、その連携システムの構築及び運用管理を委託するものである。 2 業務の状況を把握しているなどの強みが結果に出ているのではないか。複数の事業者が応じられる体制を持っているという認識であり、結果的に、同じ事業者が落札したと考えている。 3 システム標準化に関する3-2の案件は、全国で一斉に行っている業務であり、ベンダーそのものが不足している。 3-4の案件は、評価基準自体が複雑で、3年ごとに見直しもある。それに対応したものを作らないといけないので、全国の自治体からも、評価基準を簡易なものにするよう、見直しを要請している状況である。そういった将来的な展望もあって、年々手掛けている事業者が減ってきている。 そのため、案件数に対して事業者数が足りず、複数の応札者が現れることが難しいという社会的な背景がある。		
		4-1	1 単価契約が含まれる場合、なぜ発注方法が競争入札ではなく、見積合せになってしまうのか。		1 法律により、競争入札は落札者決定方法等が定められており、複数の工種において価格を決定する必要がある単価契約では、競争入札の手続きで落札者を決定することができない。単価契約のように、競争入札の方式にそぐわない契約発注をする場合、法律上の分類的には随意契約で発注することになるが、有利な価格で契約したいのと、競争性確保のため、競争見積合せを行っている。		
		その他質疑		1 一般競争入札で入札中止となった場合、入札参加の希望者の有無を早期に確認できることで、入札不調に比べてその後の対応の検討がその分早く可能になるとのことだが、実際にどのような対応がなされたのか。		1 再度入札を行っている。案件により対応は異なるが、状況によっては設計や参加資格要件を見直している。	
				2 一般競争入札の適用範囲を拡大した結果として、入札中止案件が増えていることについて、どう考えているか。		2 一般競争入札で入札中止となった案件を、仮に指名競争入札で発注した場合、全者辞退となり入札不調の可能性があるため、比較が難しい。一方、指名競争入札の場合、通常5者から7者に指名業者数を限定することが多いが、一般競争入札の適用拡大により、入札者数が指名競争入札で行っていた場合の指名業者数より多い案件も増加している。良い面と悪い面があるため、一般競争入札の適用拡大の是非について、引き続き入札状況を検証していきながら判断したい。	
抽出案件に関する意見等							
その他運用状況等							
意見等を求める内容							
概要							
意見等		入札不調・入札中止となった案件について、その後の経過についても資料として整理していただきたい。					